

コンポジションは、場所と若い才能を結びつけることで、若者を支援する活動を行っています。

- ✓リーガルウォール…公園や民間のビル等、町の壁をボランティアで清掃し、そこに若手のアーティストが壁画を描いて、壁を再生する活動。多くのアーティストに活動と評価の場を提供している。
- ✓美竹公園…渋谷区からの委託を受け、M・ジョーダンが寄贈した「ジョーダンコート」及び美竹公園の企画運営を行っている。毎週日曜に子ども・若者と一緒にバスケットを楽しむイベント、公園のゴミから地域住民との交流まで、区と協働して公園づくりを推進。



- ✓国内最高レベルのストリートバスケット大会「ALLDAY」、公園や陸上競技場を借り切り、ボランティアで一日限りの野外トレーニングジムを生み出す「RUN CARAVAN」を実施。

活動のヒント

「ボランティアは、誰かのためにというだけでなく、やっている自分自身も楽しく、うれしいものであると考えています。例えば、『リーガルウォール』の活動にしても、壁の清掃などに参加することは簡単ですが、それだけでは意味のある活動とは言えません。私たちは若者の支援のために活動をしていて、そこには、自分たちが支援している人が世の中に役立ってほしいという夢があります。ですから、みなさんが取り組むのであれば、ゼロから始めてはどうでしょうか。自分たちで支援したい人を探し、企画から内容、アピールの方法、活動、事後のリサーチまですべてを実施します。私たちは、そのノウハウを教えることなら喜んで協力します。自分の問題意識から始めて、どう活動していくか、という学習ができればいいと思います。」

コンポジション

〒150-0043 渋谷区道玄坂2-15-1 ノア道玄坂314
TEL/FAX: 03-3463-8159 URL: <http://komposition.org/>

社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠キートスホーム 園長 大村洋永さん ボランティアコーディネーター 西原恵子さん

至誠キートスホームは至誠ホームが経営する特別養護老人ホームです。ここには、開設の6年半前から専門のボランティアコーディネーターが在席し、青少年の活動も含め専門に様々なボランティア活動の支援に取り組んできています。現在、至誠キートスホームでは、高校生が夏の体験ボランティアをきっかけに、自主的にボランティアに来ています。

青少年の体験活動実施に向けてのヒント

「年間カリキュラムの中で時間をかけて準備し、実践し、振り返ることが大切です。その中で、自分にできること、得意なこと、学んだことを等身大でやればいいのです。例えば園芸部であれば、育てた花を持ってきてだけでなく、入居者と一緒にお花を部屋に飾りながら会話をして交流することなど。

また、生徒の作品発表会などを、ここで行ってもいいと思います。お年寄りの中にも、絵や陶芸が得意な方がいますから、そこで交流が生まれます。作品の交換や、活動後の手紙の交換などその後の交流も大切です。お年寄りは触れ合うことや、自分を訪ねてくれる人がいることで自分自身の存在を再確認し感激します。自主的に取り

組む気持ちをもってください。」

施設への訪問について

「慰問であればお断りします。慰めを受ける対象ではありません。皆さん主体的に前向きに生活されているのです。また、大勢で訪問し見学して終わるのもいけません。積極的にお年寄りと交流してください。その際には謙虚な気持ちで忘れず、また事前学習で、声のかけ方や、ゆっくり話す方法、弱いほうに合わせることの大切さ等をしっかり学んでから来てほしいです。そうすれば実践を通して、たくさんの方の気付きを得ることができます。」

そして社会人として、訪問のマナーや相手への配慮を身に付けることで、市民としての感性や常識を学んでほしいです。ボランティアはパートナーです。なくてはならない存在です。双方向の活動を心がけ、心を閉ざさず、ゆとりや感性を磨いてほしいです。」

至誠キートスホーム

〒190-0002 立川市幸町4-14-1
TEL: 042-538-2323 FAX: 042-538-2324
URL: <http://www.shisei.or.jp>

特定非営利活動法人 地域パートナーシップ支援センター 理事長 小野紀之さん

地域パートナーシップ支援センターでは、全国各地の子どもたちが身近な自然や生活、人など「地域の宝」を自由に撮影し、写真ハガキにして全国に発信する「アイ・ラヴ・マイタウン プロジェクト」を2007年度からスタートさせ、その運営に地域の企業をはじめ、大人から学生まで参加してもらうことにしています。このような活動を通じて、環境保全の取組を積極的に推進するとともに、地域交流のきっかけを提供しています。都立高校への支援も行っています。

奉仕体験活動のあり方について

「奉仕体験活動については、環境保全活動の中に自然な形で取り入れたいと考えています。それには、やってよかった、喜んでくれる人がいる、という気持ちを高校生がもてるような活動にすることが大切です。そのためには、誰のために、何ができるかをテーマも含め、生徒自身に見つけさせるような授業計画を立てなければなりません。私たちは、そのためのお手伝いをするにはできません。自分の身近なところに題材はたくさんあります。自分から進んで人の役に立ちたいという思いを育てることが大切です。」

外部からの学校支援について

「学校支援については、こちらが前面に出てすべてやってしまうこともできますが、それでは継続せず、その場限りで終わってしまいます。まず先生に、何がやりたいのかということをはっきり聞きます。その上で多くの情報を示し、先生に見つけてもらいます。先生自身に『こうしたい』という強い気持ちをもってほしいです。このように活動そのものより、その前後の時間が大切になります。これまで何をしてきたのか、何がしたいのか詳しく聞いたうえで、これからどうしたらいいのか、相手のニーズに合わせて、ともに考えていきます。」

環境教育ももちろんそうですが、授業は、子どもの思いを大切に、主体性を育てるものでなければなりません。大人が押し付けるものでは意味がありません。子どもの心にいつまでも残るものを、常に考えています。」

地域パートナーシップ支援センター

〒146-0083 大田区千鳥3-24-4 大塩ビル4F
TEL: 090-9673-5740 FAX: 03-5482-9887
メール: hirugi@mb.infoweb.ne.jp
URL: <http://candp.or.jp/>

